

では、「無意識のエゴ」の動きを抑えるには、どうすればよいか

「エゴ」は消せない

「エゴ」は抑圧すると

別な場所で表に現れてくる

さて、我々の心の中で、実に厄介な動きをするのが「無意識のエゴ」ですが、では、この「無意識のエゴ」の動きを抑えるには、どうすればよいのでしょうか。実は、この問いに対しては、これも全く逆説的なことが求められるのです。

いま、「エゴの動きを抑えるには」と言いましたが、実は、エゴの動きを「抑える」ことはできないのです。

なぜなら、我々の「エゴ」というものは、表面意識で抑えつけると、しばらくは、意識の底に沈んでいきますが、必ず、また別なところから浮かび上がってきて、我々の心の中で厄介な動きをするからです。

例えば、先に述べた、出世競争に敗れたA課長。その人事を悔しいと思い、妬む心を、その場面では、「自分は出世には興味ない」という言葉で抑圧する。

しかし、その後、B部長が不祥事に巻き込まれると、そのエゴが密かに動き出し、B部長を正義によって糾弾する^{きゆうたん}という形で、エゴの衝動が表出してくるのです。

さらに、世の中では、しばしば、「エゴを捨て去れ」という言葉が語られますが、エゴを「捨てる」ことはできないのです。

なぜなら、人間の心の奥にあるエゴとは、我々の生存の本能と表裏一体のものであり、それを捨てるということは、ある意味で、生命力を捨てることを意味しているからです。

では、抑圧することなく「無意識のエゴ」に処するには、どうすればよいか

「エゴ」に処する最も賢明な方法は

ただ静かに

「エゴ」を見つめること

では、この「無意識のエゴ」というものが、抑圧できないとすれば、そして、捨て去ることができないとすれば、どうすればよいか。

実は、この扱いの厄介な「エゴ」というものに処する、一つの賢明な方法があるのです。それは、何か。

静かに見つめることです。

自分の心の中の「エゴ」の動きを、「批判」することなく、「抑圧」することなく、「消そう」とすることなく、「捨て去ろう」とすることなく、

ただ、「見つめる」ことです。

なぜなら、不思議なことに、エゴというものは、ただ静かに見つめるだけで、その厄介な動きが静まっていくからです。

例えば、出世競争に敗れたA課長。もし彼が、自分の心を静かに見つめ、

「ああ、心の中のエゴが、悔しいと思っっているな。B君に嫉妬しているな」と感じ、

B部長の不祥事に際しても「ああ、エゴが、彼の失敗を喜んでいるな」と感じるならば、このA課長の心の中のエゴは、破壊的な衝動に流されることなく、静まっていくのです。

では、人間の「精神の成熟」とは、何か

成熟とは

自分の心の中の

「エゴ」の動きが見えていること

このように、我々の心の中にある「無意識のエゴ」の否定的・破壊的な動きを知り、

「ただ、静かに見つめる」という賢明な方法を身につけていくとき、

我々は、人間の「精神の成熟」ということの、一つの意味を知ります。

「精神の成熟」とは、自分の心の中の「エゴ」の動きが見えていること。

その意味を知るのです。

すなわち、成熟とは、決して、自分の心がエゴから「解放たれる」ことではなく、自分の心の中のエゴの動きが「見えている」ことなのです。

たしかに、我々は、人生において、自身のエゴの動きによって苦しむことが多い。

そして、そのエゴの動きを抑えたり、消したり、それから解放されることは、難しい。

しかし、実は、そのエゴの動きが静かに見えているだけで、救われることも多いのです。

世の中でしばしば使われる、「自分が見えている」という言葉の真の意味は、

まさに、この「自分の心の中のエゴの動きが見えている」という意味に他ならないのです。

そして、自分の心の中の「エゴの動き」が見えるようになると、

実は、もう一つの大変な力量が身につけていくのです。

では、自分の心の中の「エゴの動き」が見えると、何が起こるか

自分の心の中の「エゴの動き」が見えるようになる
相手の心の中の「エゴの動き」も見えるようになる

では、自分の心の中の「エゴの動き」が見えるようになると、何が起こるか。

相手の心の中の「エゴの動き」も見えるようになります。

そして、この力量は、多くの人々と共に仕事をするプロフェッショナルの道を歩むとき、また、多くの人々を部下や社員として預かるマネジメントの道を歩むとき、極めて大切な力量なのです。

世の中では、しばしば、こうした人間の心の中の「エゴの動き」を知るために、「心理学」や「人間学」に関する本を読むことが薦められますが、実は、最大の学びは、「自分の心の中」にあるのです。

我々は、人間の心の中の「陰の部分」や「悪と呼ばれる部分」についての本を読むと、無意識に、「自分はそうではないが、こういう人間もいる」と考える傾向があります。しかし、まさに、その思考こそが、自分の心の中の「エゴの動き」に他ならない。

実は、我々の心の中にも、そうした「陰の部分」「悪の部分」が、存在しているのです。それゆえ、昔から、経営の世界では、一つの言葉が語られてきたのです。

「経営者として大成する人間は、悪いことができ、悪いことをしない人間である」